

天満宮利生記

吉野末昭著

○天曆元年三月十二日近江國比良社祓宜壬生良禰
一紙起請文を携へ上奏志するに良禰が一子今年七
歳なる者俄く物よ物とてさへぬぐの事と口をくま
りし我是菅並相道真が変化乃神大政大威
徳天神也我王城の側よ培て永欲護寶祚則大
河の北野よ一夜れ中に一千株の松を生じせしもの
所一祠を立て我とて可稱天満大自在天神と
我昔菅家よ成長すの時爰入る松本我身に生じ
て則折らりと是を以て我覚悟しけるに必三公昇